

授業科目 看護実践法演習

【担当教員名】 阿部明美	対象学年	1	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

看護を実践する上での問題解決や意志決定過程のために必要な看護過程について理解し、その活用方法を修得する。看護過程の各段階（アセスメント《・診断》・計画立案・実施・評価）について学習し、事例を用いて看護過程の展開を行い（演習）、看護実践における活用方法を修得する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 看護における看護過程の意義について説明できる。
2. 看護過程の各段階（アセスメント《・診断》・計画立案・実施・評価）について説明できる。
3. ロイ適応モデルの支持理論およびモデルの概要について説明できる。
4. ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能について説明できる。
5. 看護過程の記録用紙の活用方法について説明できる。
6. 事例に基づき看護過程（アセスメントから計画立案）が展開（記録用紙への整理）できる。
7. 事例における看護過程の展開を発表し、ディスカッションを通して看護過程の理解を深めることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1-5	1. 看護における看護過程の意義発表（グループ毎）まとめ 2. 看護過程の各段階 3. ロイ適応モデルの支持理論およびモデルの概要 4. ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能 5. 看護過程の記録用紙	1	講義
		2	講義
		3	講義
		4	講義
		5	講義
6-13	6. <演習>事例をもとに看護過程の展開 各グループおよび個人で事例についての学習を進め、看護過程（アセスメントから計画立案）を展開（記録用紙への整理）する。	1-6	演習（基礎看護学全教員）
14	発表（グループ毎）	1-7	発表
15	まとめ		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I	藤崎郁他	医学書院	2007 2,600円+税
参考書	ロイ適応モデルによる看護実践ガイド-診断・介入・評価	江本愛子編	メヂカルフレンド社	1998 2,520円 (税込み)
その他の資料	随時提示する			
	プリント類			
【評価方法】 出席状況 (20%) 看護過程各様式 (50%) 終了レポート (30%)	【履修上の留意点】 ここでの学習をもとに、基礎看護学実習 II では実際に患者を受け持ち看護過程を展開するため、積極的に演習に取り組み、理解を深めること。			